

水害から身を守る

気象台からの気象情報は、市町ごとに発表されます。万一に備え、市民の皆さんも日頃からテレビ、ラジオなどで気象情報を確認するように心がけましょう。

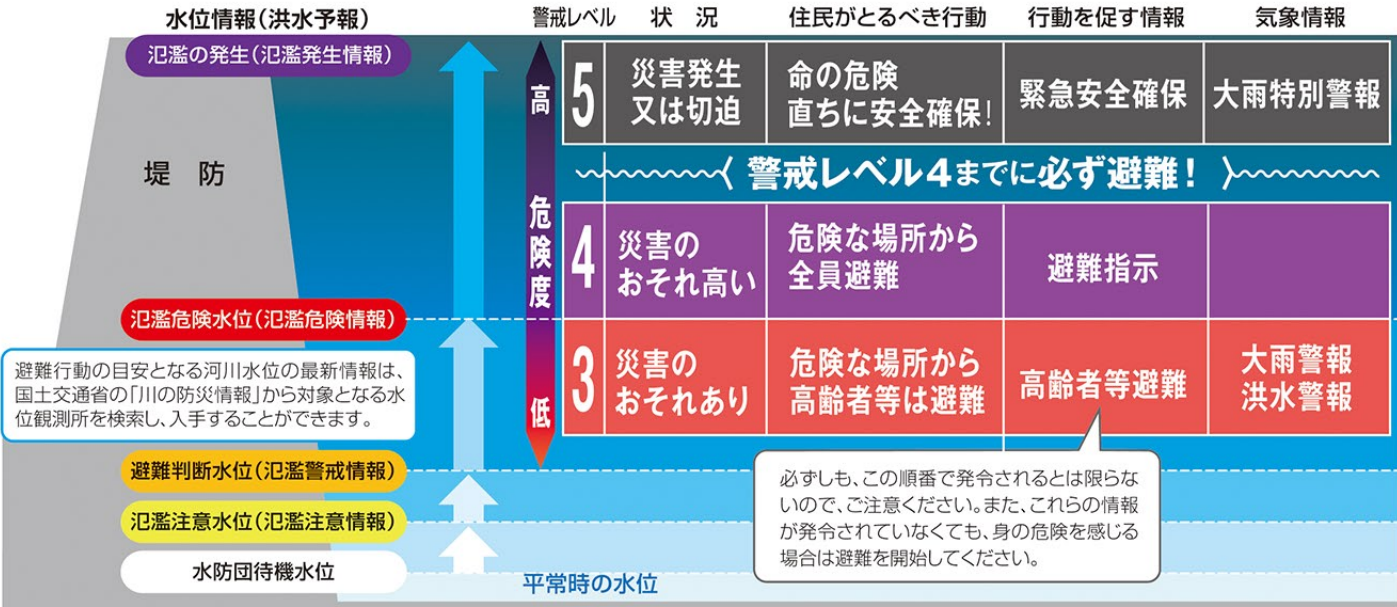
◆ 雨の降り方と雨量 ◆

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を覚えておきましょう。

	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm 以上
雨の降り方 1時間雨量 (mm)					
人の受ける イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したよう に降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感 があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元 がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅の場合)	雨の音で話し声がよく聞き 取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に 乗っていて	ほとんど影響なし	ワイパーを速くしても 見づらい	高速走行時、車輪と路面の 間に水膜が生じブレーキが 効かなくなる	車の運転は危険	

◆ 避難情報の種類と避難行動及び水位と洪水予報の関係 ◆

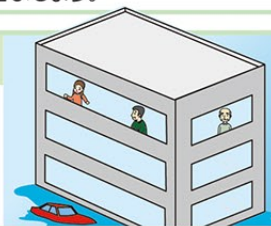
河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県、気象台が共同で、水位や防災に関する情報を発表します。市は、この情報を目安に、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難指示等の避難に関する情報を発令します。



◆ 避難時に注意すること ◆

- 歩ける深さ男性70cm、女性50cm
歩ける深さは、男性で70cm・女性で50cm までです。水深が腰までである場合は高いところで救助を待ちましょう。
- 動きやすい服装、2人以上での避難
避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。サンダル等は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。

- 水面下は危険です
水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。
- 万一、逃げ遅れたら
近くの丈夫な建物の2階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の2階部分でも場所によっては危ないときもあります。



土砂災害から身を守る

土砂災害とは、土石流、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、地すべりのことをいい、勾配の急な山やがけ、渓流のある地域に発生します。土砂災害のほとんどは、長雨や地震に起因し突然発生します。特に長雨や大雨の場合は、大量の水分が地中にしみ込み、その量が多いほど斜面の土が弱くなり、災害の発生する可能性が高くなります。このため、災害が発生するおそれのある区域をあらかじめ把握し、大雨などの際には気象情報の収集を行い、身の危険を感じたら早めの避難を心がけてください。

がけ崩れ

雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象

●●●● このような前触れに注意! ●●●●

- ◆ がけから水がわき出ている
- ◆ がけから小石がばらばらと落ちてくる
- ◆ 地鳴りがする
- ◆ がけにひび割れができる

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象

●●●● このような前触れに注意! ●●●●

- ◆ 山鳴りがする
- ◆ 急に川の水が濁り、流木が混ざりはじめる
- ◆ 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象

●●●● このような前触れに注意! ●●●●

- ◆ 沢や井戸の水が濁る
- ◆ 地面にひび割れができる
- ◆ 斜面から水がふき出す

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

警戒区域は、土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

特別警戒区域は、警戒区域のうち土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

※土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

◆ 土砂災害警戒情報について ◆

「土砂災害警戒情報」は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市が避難指示などを発令する際の判断や、住民の皆様の自主避難の参考となるよう、県と気象台が共同で発表する防災情報です。ただし、土砂災害は地質や地形、地下水の状況などに大きく影響を受けるため、発生の詳細な情報を特定することはできません。土砂災害警戒情報が発表された場合はもちろん、発表されていなくても、斜面の状況などに注意を払い、前兆現象に気がついたら、直ちに安全な場所に避難しましょう。

◆ 避難時に注意すること ◆

● まずは事前の確認!

土砂災害から避難するためには、事前に危険な場所を確認し、災害の前兆現象を知っておくことが大切です。ハザードマップを使って確認しておきましょう。

● 寝る場所にも注意!

就寝中に発生する場合があります。日頃から、2階などできるだけ上の階や山側から遠い部屋に寝るなど土砂災害に備えましょう。

● 垂直に逃げる!

がけ崩れの前兆現象を発見したら、斜面からできるだけ遠くに逃げましょう。土石流の場合は、土砂の流れる方向に対して垂直に逃げるようにしましょう。

土砂災害(特に土石流)の場合、屋内安全確保を行っても家屋全体が倒壊、流失、埋没する危険性があるため、早めに立ち退き避難を始めましょう。

※ 屋内安全確保(垂直避難)・・・自宅の2階などできるだけ上の階や山側から遠い、可能な限り安全な場所への移動(避難行動)です。
※ 立ち退き避難(水平避難)・・・避難所への移動、自宅から安全な場所(公共施設、親戚、友人宅等)、近隣の堅牢で高い建物等への移動(避難行動)です。